

## 江澤 和信 さん (ゴールドマン・サックス証券株式会社 法人営業部 部長)



- 既婚・2人のお子さんあり(40代)
- 邦銀時代に、定時で帰宅し育児・子育てを行い、仕事と家庭を両立する
- その後、外資に転職
- 現在は、平日は仕事、休日は家族と、メリハリのある働き方である



### ワークライフバランスを保つために心がけていることは

- 組織の中では、個人個人のイニシアティブを大切にしたい。邦銀時代には、家庭の状況など個人の抱える問題を理解してもらえることはほとんどなかったので、その時の思いが今、部下の一人ひとりの状況を見ることにつながっている。
- 自身はメリハリのある働き方をするようにしている。

### 働きやすい会社になるために重要なことは

- なるべくコミュニケーションをとること。そして、「ありがとう」「感謝している」という言葉を同僚にも部下にも忘れない。人を大切にする姿勢が働きやすさにつながってくると思う。
- 自ら姿勢を示す。自分がそう接すれば、周りも自然にそうなる。

### 男性へのメッセージ

- 男性、女性を意識しないことが必要だと思う。仕事をする上で性差はない。あくまで個人差である。出来る人にはどんどん任せていけばいい。そうでなければもったいない。
- とにかく、何でも経験すること。子育ては大変だったが、その大変さもやってみないとわからない。違う考え方が見えてくる事もあるし、多様な価値観を認め、柔軟な考え方が出来るようになる。

### 女性へのメッセージ

- わかってくれない男性と対立する必要もない。事実で否定的になることもない。ただ、わかってもらえる努力をする必要はある。
- 保守的な人はどこにでもいるし、すれ違いが生じることも多いが、いったん保守的な人を味方にしたら強いサポーターになってくれる。避けずにコミュニケーションをとることが大事だと思う。

### その他

- 部下の能力を活かし育てていかなければと思う。それは子育てと一緒に。昔の子育て経験が、部下への視線に繋がっている。

## 鈴木 公 さん (株式会社 FUJITSUユニバーシティ)

- 既婚・3人のお子さんあり(30代)
- 第三子は今年生まれたばかり
- 入浴は必ずお子さんと一緒に(第三子の沐浴も担当)
- 上のお子さん2人の寝かしつけも担当



### ワークライフバランスを保つために心がけていることは

- 仕事と家庭生活はハッキリ分けられるものではないと思う。
- ワークライフバランスというより、ワークライフハーモニーだ。
- 子供が仕事をしている父親の姿をイメージできることも大切だと思っている。
- 子育てに積極的に関わりたいと思っているので、今は、家にいる時、自分の時間を一切持てないでいるが、それはそれでよいと思っている。(趣味やスポーツに割く時間がない。)

### 働きやすい会社になるために重要なことは

- 相手の立場を思いやるよう意識すること。
- また自分が周りに理解してほしいことは、言い方を考えて、きちんと伝えるようにした方がよい。
- 上司の言葉で「部下ができた時は自分の奥さんだと思って接しろ」という言葉が印象的だ。愛を持って接すれば、ギスギスした職場にはならないはず。

### 男性へのメッセージ

- 2番目の子が生まれる時、育児休業をとって育児をした経験が、本当に貴重だった。想定できないことも起こるし、想像以上に疲れて、どんなに大変なことか身にしみてわかった。自分で経験するということがとても大切である。
- チャンスがあるのなら、逆の立場を経験した方がいい。そのことによって相手への理解が深まるし、それによりかける言葉も違ってくる。

### 女性へのメッセージ

- 10年前と比べたら、制度も意識面も確実によくなってきている。諦めずに、自分が進みたい道があるなら、進むことを考えてほしい。
- 頑張っていたら支援者は必ず現れると思うので、前向きに取り組んでほしい。
- 男性は子供だから、大きな度量で受け容れる程度で丁度よいと思う。真っ向勝負はしない。